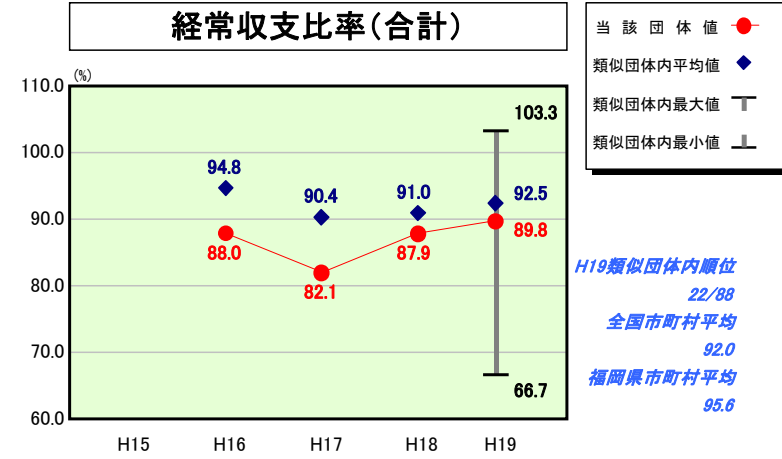
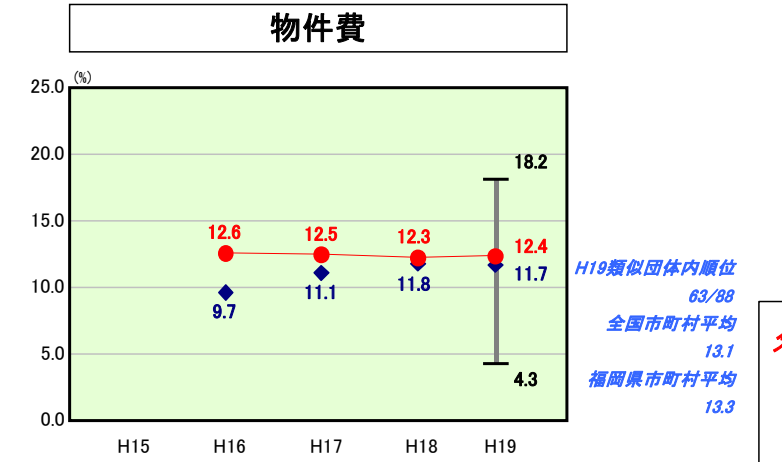
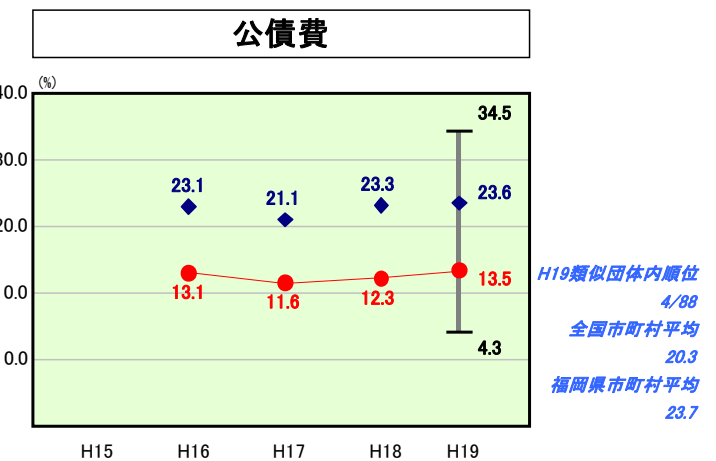
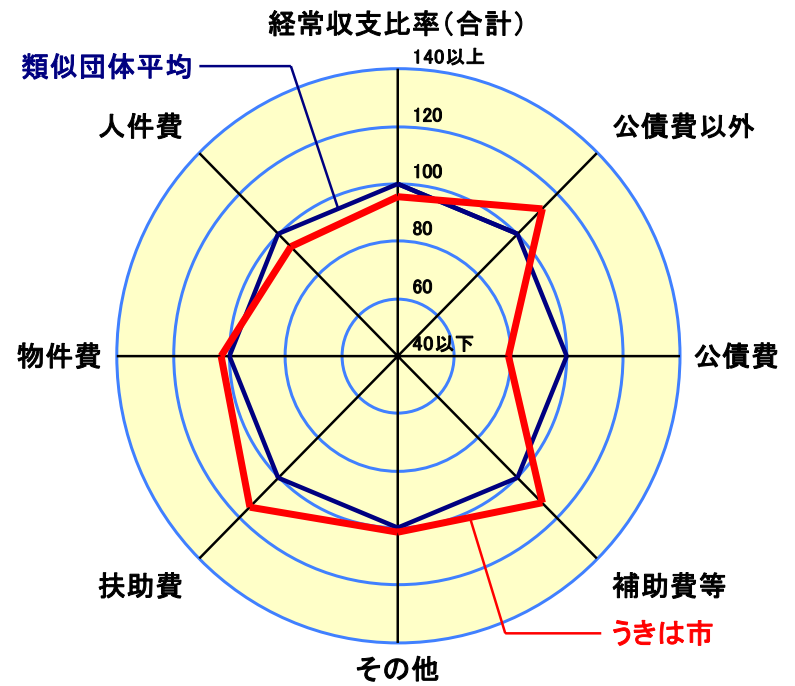
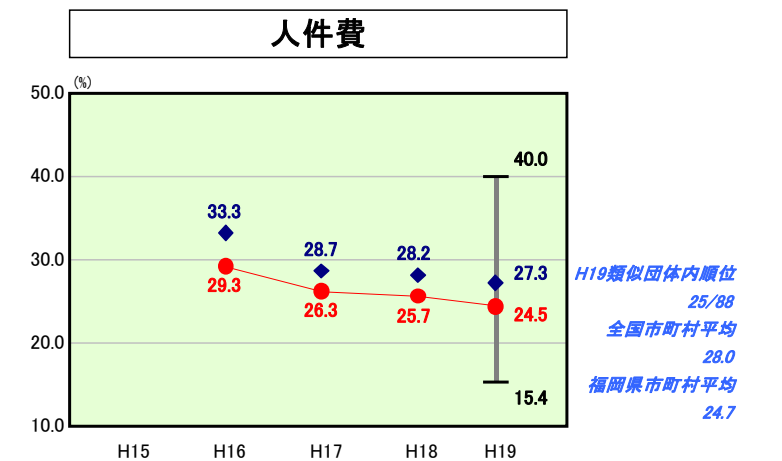
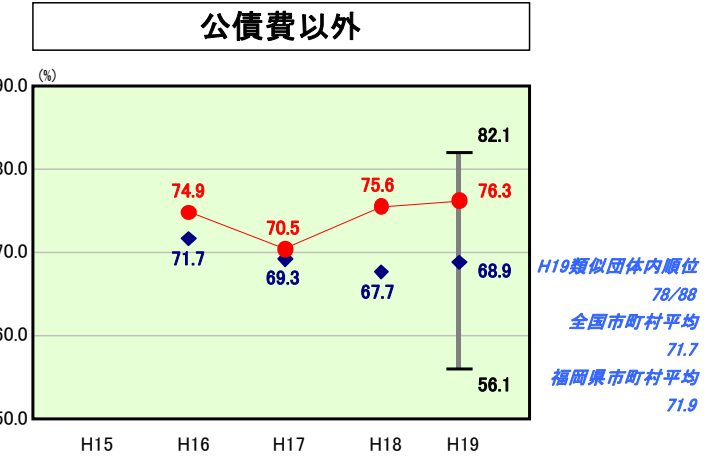


# 歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

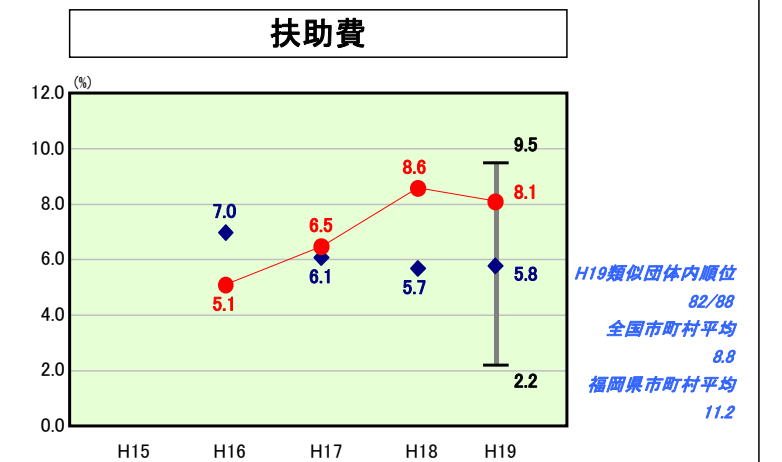
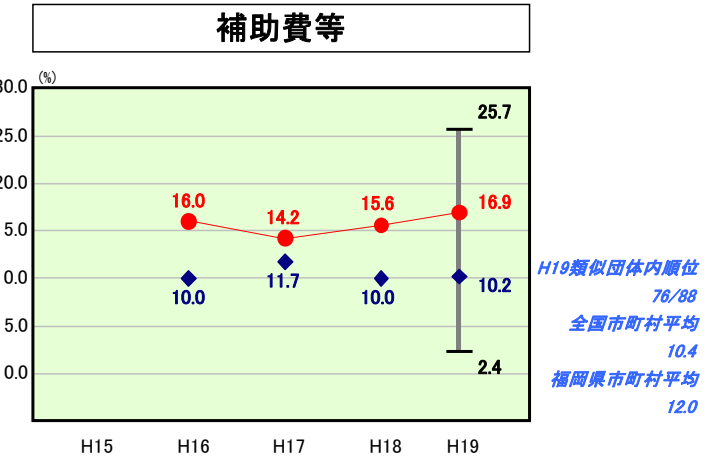
## 経常収支比率の分析



人口	33,264人(H20.3.31現在)
面積	117.55 km <sup>2</sup>
歳入総額	14,144,141千円
歳出総額	13,681,425千円
実質収支	362,074千円



※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている)  
 ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より内側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。  
 ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



### 分析欄

**人件費** : 類似団体平均と比較すると、人件費に係る経常収支比率は低くなっているが、その要因としては、集中改革プランに掲げた『平成22年4月1日までに職員数7.2%の削減にむけ、退職者の不補充等により、定員管理の適正化に努めていることが寄与している。今後とも、引き続き集中改革プランの確実な推進を図り、人件費の抑制に努める。

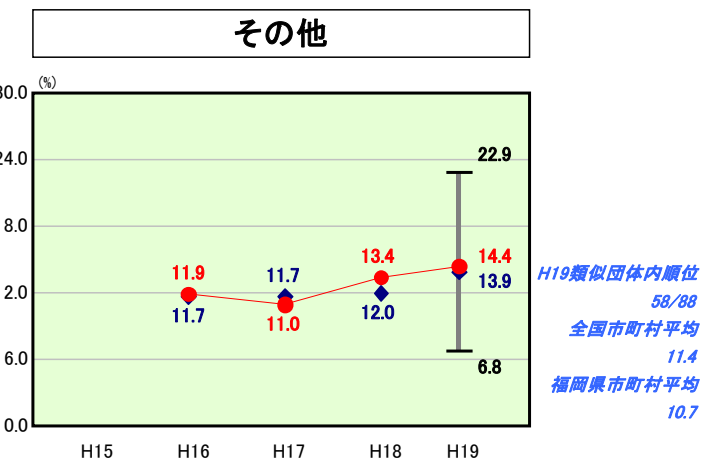
**物件費** : 物件費に係る経常収支比率が高くなっているのは、経常的な賃金の増加等が主な要因となっていると思われる。今後、業務体制の見直しによる臨時職員の削減・旅費の削減等の経常経費削減に努め、より一層の物件費の抑制を図る。

**扶助費** : 扶助費に係る経常収支比率は、類似団体平均を下回っているが、今後、生活保護費の増加等も考慮しながら適切な財政運営に努める。

**公債費** : 類似団体平均と比較すると、公債費に係る経常収支比率は低位に位置しているが、今後、総合体育館建設事業等に充てた合併特例事業債の償還額の増加が見込まれており、今後の起債発行について、事業内容の精査等を行い、起債発行総額の抑制に努める。

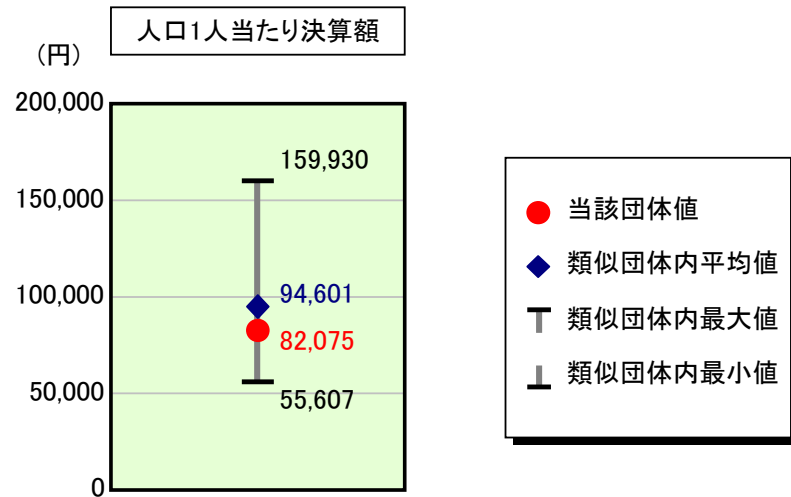
**補助費等** : 補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、一部事務組合等に対する負担金が多額となっているためである。特に、ごみ処理施設の整備に充てた起債の償還が続いていく。今後は、引き続き一部組合に経費削減の努力を求めて行くとともに、補助金・負担金の随時見直しを行っていく。

**普通建設事業費** : 1人当たり決算額が類似団体平均を上回った主な要因は、公営住宅建設事業・吉井中学校給食室建設を行ったことが影響している。平成17年3月に合併し、新市建設計画に基づく事業の実施により、ここ数年は、普通建設事業費は多くなる見込みである。



# 歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



### 人件費及び人件費に準ずる費用

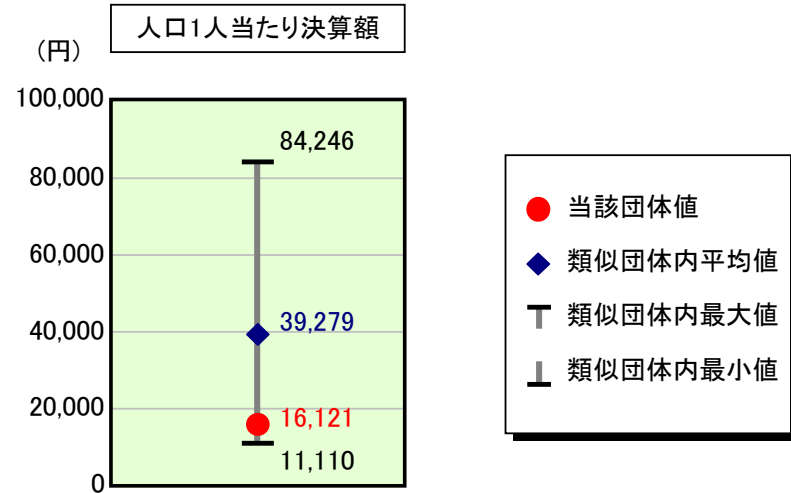
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比 (%)
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	
人件費	2,376,537	71,445	87,999	▲ 18.8
賃金(物件費)	176,560	5,308	4,997	▲ 6.2
一部事務組合負担金(補助費等)	287,251	8,635	6,737	▲ 28.2
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,224	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	45,453	1,366	3,103	▲ 56.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	46,512	1,398	1,966	▲ 28.9
▲退職金	▲ 202,180	▲ 6,078	▲ 11,425	▲ 46.8
合計	2,730,133	82,075	94,601	▲ 13.2

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	7.37	9.89	▲ 2.52
ラスパイレス指数	95.9	95.2	▲ 0.7

ラスパイレス指数及び職員数に係る項目については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである(以降の項目について同じ。)。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目を「-」としている。

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

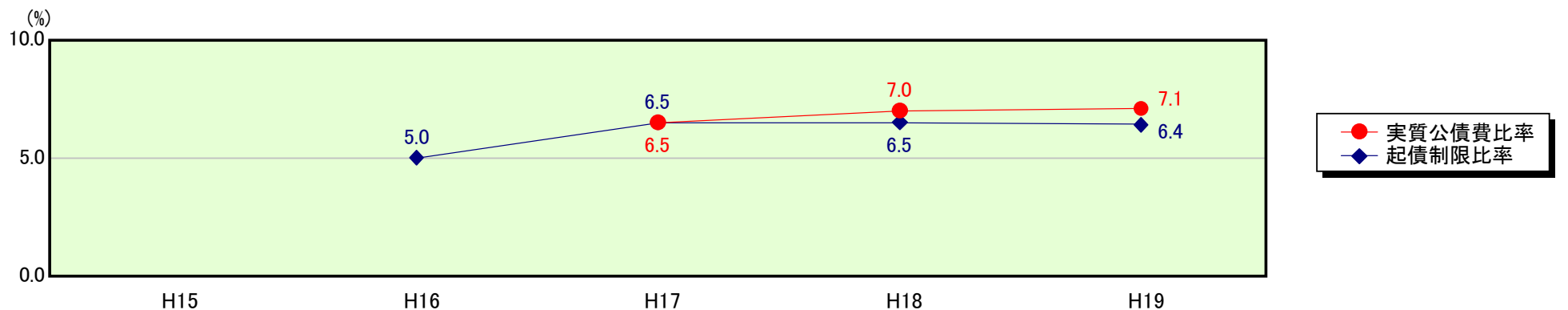


### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		対比 (%)
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	
公債費充当一般財源等額 (繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く。)	1,098,881	33,035	63,164	▲ 47.7
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)等	-	-	22	-
公営企業債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	370,049	11,125	19,567	▲ 43.1
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金に充当する一般財源等額	211,542	6,359	5,291	▲ 20.2
債務負担行為に基づく支出のうち公債費に準ずるものに充当する一般財源等額	-	-	2,357	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	22	-
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 1,144,232	▲ 34,399	▲ 51,144	▲ 32.7
合計	536,240	16,121	39,279	▲ 59.0

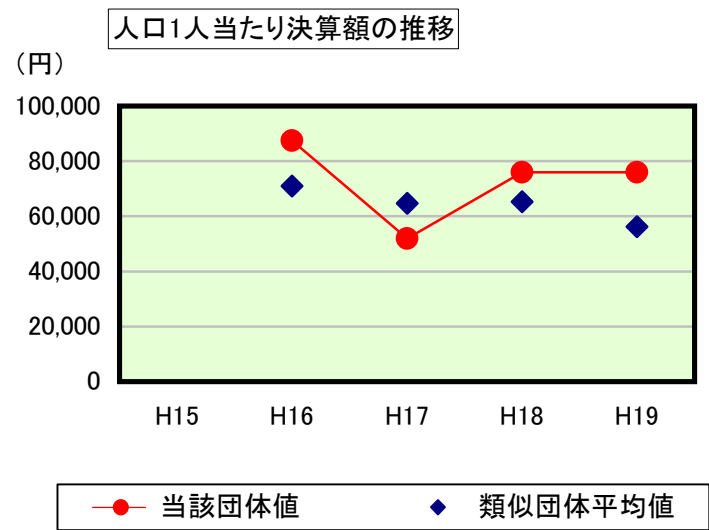
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、「-」としている(以降の項目について同じ。)

### ※参考 実質公債費比率及び起債制限比率の推移



# 歳出比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 普通建設事業費の分析



## 普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H15	-	-	-	-	-	-
うち単独分	-	-	-	-	-	-
H16	2,981,882	87,443	-	70,938	-	-
うち単独分	1,827,617	53,594	-	35,063	-	-
H17	1,761,234	51,934	▲ 40.6	64,690	▲ 8.8	▲ 31.8
うち単独分	935,112	27,574	▲ 48.6	39,427	12.4	▲ 61.0
H18	2,549,960	75,926	46.2	65,235	0.8	45.4
うち単独分	1,410,025	41,984	52.3	35,265	▲ 10.6	62.9
H19	2,527,955	75,997	0.1	56,233	▲ 13.8	13.9
うち単独分	1,629,566	48,989	16.7	32,240	▲ 8.6	25.3
過去5年間平均	2,455,258	72,825	1.9	64,274	▲ 7.3	9.2
うち単独分	1,450,580	43,035	6.8	35,499	▲ 2.3	9.1